

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	川崎西部地域療育センター保育所等訪問支援事業所		
○保護者評価実施期間	令和6年11月13日	～	令和6年12月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	令和6年11月13日	～	令和6年11月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 18
○訪問先施設評価実施期間	令和6年11月13日	～	令和6年12月20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	12	(回答数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・適切なアセスメントを基にこども、保護者のニーズに応じた支援目標を作成し、支援を行っている	・アセスメントシートを活用し、保護者、職員でこどもの実態、ニーズを把握している ・フォーマルな評価（発達検査など）とインフォーマルな評価（日常・集団生活）からこどもの強み、課題を明らかにしている	・支援計画作成する際に、訪問先施設担当者から施設のニーズ、困り感をさらに丁寧に聞き取りながら、支援計画へ反映させていく
2	・保護者の困り感を把握しながら支援を行い、支援内容の説明とともに、保護者からの質問に丁寧に回答することで、信頼関係を築いて支援を行っている ・訪問先施設の担当者とその都度支援内容を情報共有し、施設担当者の困り感にも対応することで、訪問支援スタッフと協力関係を築きながら支援を行っている	・タイムリーに保護者とコミュニケーションを図れるように面談だけではなく電話連絡などを活用している ・「コンサルテーション満足度尺度」を使用して訪問先施設の状況に合わせた支援ができているか振り返りを行うこともある	・保護者と円滑なやり取りが日常的に行えるように担当者がzoom等の活用も含めた柔軟な対応を継続するとともに、保護者にも定期的な面談への参加など協力をお願いしていく
3	・様々な職種がこどものニーズに合わせて訪問支援担当となり、より専門的な支援を展開できる体制がある	・子どものニーズを分析し、どのタイミングでどの職種が支援を開始するとよいか所内会議で組織的に検討を行っている	・訪問支援スタッフ間で訪問効果を分析し、さらにコンサルタントとしての力量を高めていく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・より多くの職員、職種が訪問支援員として支援する経験を積み、コンサルテーション力を高めていく ・訪問支援の支援内容、課題などを職員間で共有し、訪問支援事業所として平準化した支援内容にしていく	・子ども、訪問先施設のニーズに対して、事業所として優先順位をつけ、業務整理を行いながら、組織的な支援をどう行うかを検討している	・地域の生活、学びの場での困り感に積極的にアプローチしていく支援ができる組織体制作りを進めていく必要がある ・訪問支援スタッフ間で定期的にカンファランスを行ったり、複数の職員で訪問する機会も作るなど、支援技術を共有し、高めていく取り組みを行う
2	・職員間で機動的に業務運営を行い、担当者間で情報共有すべきことをタイムリーに連結し組織的な支援力を高めていく ・訪問支援に必要な事務的な作業を効率的にすすめ、訪問支援に必要な準備時間を確保していく	・様々な職種が独立して日々業務を行うスタイルであるため、情報の連結、課題の検討がすぐにできないことがある ・障害福祉サービスの報酬改定に伴う評価の見直しなど、作業工程に必要な手続きなどの情報を各担当者が十分に理解していない面がある	・定期的なミーティングとともに日々の業務の中で、積極的に情報を伝えあうことを意識する ・作業工程を各訪問支援担当者が理解し、作業をシステム化して行えるようにしていく
3			